

## 森 本 英 文 先生

臨床の現場では技術だけでは充分でなく、  
コミュニケーション能力が非常に大切になってきます

今回は、東京大田区のリバティール・カイロプラクティック院長の森本英文DCをおたずねしました。東急池上線洗足池駅から徒歩で5分ほどの住宅街にあります。先生はカイロプラクティックのアプライド・キネシオロジー(AK)を中心とした治療をされています。カイロプラクターになられた経緯、現在の治療法、今後の抱負などを伺いました。

●アメリカ留学のいきさつをお聞かせください。

最初からカイロプラクティックの大学に入るつもりでアメリカに行ったわけではありませんでした。私は高校1年生の頃、円錐角膜という急激に視力が落ちる病気になりまして、日本ではどの病院でも回復は無理だと言われました。そこで視力のハンデを補うためと英語力をつけるために、目の手術を受けられるのではないかとということでアメリカに留学したのです。最初はウェストバージニア州のチャールストン大学に入学しました。幸い目の手術も受けることができ、左目は0.01くらいから1.0までに回復することができました。医学的な見解も国によって、人によってずいぶん違うなと思いました。

●カイロプラクティックの学校に入学されたのは？

自分の目の病気の経験もあって、医療に関心が出てきました。しかし現代医学ではなく、自然医療を学びたいと思ったの

です。アメリカで生まれ、理論的にも科学的でカリキュラムもしっかりしているカイロプラクティックこそ自分の求めている自然医療だと考えてロサンゼルス・カイロプラクティック大学に入学したのです。

●アメリカの大学は入学したあとの卒業までが大変ハードであると聞いています。

最初に入学した大学では勉強の面で苦労したことはありませんでした。日本の受験レベルのほうが高いと感じるくらいで、ですからロサンゼルス・カイロプラクティック大学に編入するときも大丈夫だろうと軽い気持ちもありました。ところが大違い。そのハードさはすさまじいものでした。朝の9時頃から終日授業を受けて、そのあとは解剖の実験室に詰めます。他の学生に比べて英語も充分ではありませんし、日本語でもわからないような病名や医学用語を英語でこなさなければならなりません。さらに課題の多さで、特に最初の1学期は綱渡り状態でし

た。勉強しているか食事しているか、寝ているか、そんな毎日でした。一緒に入った50人の同級生が1学期の終わりには10名も減り、最終的には半分くらいになったのでしょうか。

●カイロプラクティックの勉強そのものはいかがでしたか？

とまどった部分でもあるのですが、最初に思っていたカイロプラクティックの学問のイメージと随分違いました。サブセッションと内臓の関係など、自分としてはそのような臨床に直結するような勉強を期待していたのですが、実際には医者が学ぶ内容に限りなく近いものでした。メディカルドクターに近づいていかないと競争に勝てないという意識が強いようで、テクニックに関しては重視されていないという感じでした。そんな違和感を持っていたときにD.C.の中川貴雄先生に出会ったのです。中川先生は現在関西方面で活躍されています。中川先生はAK(アプライド・キネシオロジー)を高く評価されていて、導かれるかたちで私もAKを勉強することにしました。臨床に直結したテクニックもたくさんあって、AKは私にとっても好ましいテクニックだったので。大学の基礎プログラムには

NPO法人日本カイロプラクティックフィジシャス協会理事  
日本バイオフィードバックトレーニング協会  
〒145-0065  
東京都大田区東雪谷1-22-6 ドエル洗足池101  
Tel:03-5754-5051  
Email:info@biofeedback-training  
<http://www.biofeedback-training.jp/>  
東京都出身 昭和43年生

含まれていないので、1年で100時間というコースを2回、大学卒業後にまた1回と、全3回受けました。卒業してからは中川先生のオフィスに勤めさせていただき、その後帰国しました。その間たくさんセミナーにも参加し、アクチベータなど他のさまざまな療法を学び、いろんな経験を積むことができました。アメリカには10年ほどいたことになります。

#### ●帰国されてからは？

日本ではこの業界にツテもなく日本のカイロ事情もわからないので、最初は接骨院などで働きました。帰国した翌年にはロイヤルメルボルン工科大学本校のカイロプラクティック学科で講師として学生の教育に携わりました。開業後2000年から現在までハンズプラクティス・カレッジ東京で教鞭をとっています。

#### ●治療院での治療法は？

骨のズレ、歪みのことをサブラクセーションといいます。そのサブラクセーションの調整をAKで行います。カイロでは一般的に骨を重視するのですが、AKでは筋肉を重視します。弱化した筋肉の治療が根本的な治療と考え、手によって筋肉の伸縮状態や可動域を確認したうえで施術していきます。施術は、

指圧のように患部をジワッと指で押して骨のズレやからだの歪みを整えます。強くもんだり骨をバキバキと矯正する手法は用いませので、女性の方、子どもさんから高齢者の方にも抵抗なく受けていただくことができます。実際に高齢の方の患者さんが多いですね。

#### ●マッサージなどを取り入れることはないのでしょか？

私は、AKの施術だけで行っています。当院に来なければ受けられないものを提供していくことがいわば差別化になると考えているので、他の治療に対抗するためにマッサージを導入するということは考えていません。もっともアジャストだけだと時間的にもそんなにかかりませんから、他のカイロプラクターの方々が経営的な部分を考慮に入れてマッサージなどを導入することを否定しているわけではありません。ただ、私は中川先生がご自分の施術だけをされていたスタイルがしみこんでいることもあって、それを踏襲しています。

#### ●先生の今後の方向は？

バイオフィードバックというのをご存知でしょうか。からだの無意識下の情報、たとえば脳波や筋電図などを計測器でとらえて意識にフィードバックし、からだや気持ちをコントロールする方法です。日本ではメンタルトレーニングとしてスポーツなどで使われていますが、アメリカでは医療行為として研究されています。私はそれを治療家のメンタルトレーニングに応用できないかと考えているのです。学校で教鞭をとっていることもあり、学生が臨床に携わったあとの状態に大変関心があります。臨床の現場では技術だけでは充分でなく、コミュニケーション能力が非常に大切になってきます。しかしそれもメンタルトレーニングによって改善できますし、毎日の積み重ねでメンタリティは変わっていきます。それらを正しいカイロプラクティックの認識とともにトレーニングの方法を広く伝えていきたいと思っています。

米国でのカイロプラクティックの勉強のハードさが伝わってきました。帰国されても、セミナーに参加したり、接骨院に勤務したりと、とてもアクティブな先生だと感じました。先生がお話されたように、患者さんとの信頼関係を構築していく上でコミュニケーション力を高めていくことは、重要になってくると思います。

